

研究 主題	自己を見つめ、道徳的価値について考えを深める生徒の育成 —道徳科におけるねらいの設定の工夫と問題解決的な学習を通して—
----------	--

## 第2学年道徳科学習指導案

指導月日 令和7年10月17日

所属校名 大崎市立松山中学校

氏名 佐々木 忍

### 1 主題名 自分自身に誇れる生き方とは（D(22)よりよく生きる喜び）

#### 2 ねらいと教材

##### (1) ねらい

主人公が自分の弱さと向き合っているときの心情について考え、人間には自分の弱さや醜さを乗り越える強さがあり、次に向かっていくところにすばらしさがあることを実感することで、自分自身に恥じず、誇れる生き方をしていこうとする道徳的実践意欲を育てる。

##### (2) 教材名

「19 本当の私」（東京書籍 新しい道徳2）

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編の内容項目「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと」を受けて設定している。

人間は決して完全なものではなく、誰しも心の中に弱さや醜さを抱えて生活している。人間の「弱さ」とは、自分を律することができず怠けてしまったり、誘惑に負け、易きに流れたりすること、「醜さ」とは、他者との比較から劣等感を抱き、誰かを妬んだり、恨んだりすることや他人を顧みず自分の利益を最優先に行動することを指す。人間は、その「弱さ」や「醜さ」と自分の良心の責めに苦しみながらも、打ち克っていくことで、恥とは何か、誇りとは何かを知ることができる。自分らしく誇りを持って生きる喜びを感じられたとき、人間は強く、気高い存在になりうるのである。「気高く生きようする心」とは、「自己の良心に従って人間性に外れずに生きようとする心」（中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編）とされている。「本当にこれでいいのか」と自問し、良心と葛藤しながらも自分の弱さや醜さを乗り越えることを通して、人間としての誇り、夢や希望のある生き方を模索しようとする姿勢を醸成したいと考える。

中学生の時期は、よりよく生きたいという気持ちが強くなる一方で、他者との比較から自分をよく見せたいという気持ちが生じるときがある。虚栄心や優越感を満たすために、自分自身を偽ったり、周りに知られなければよいと行動に移してしまったりする場合もある。そういったときに、自分の弱さと良心がせめぎ合う経験を通して、自分自身を見つめ、本来の自己を取り戻せたとき、人間として生きる喜びを感受することができ、前向きに生活しようという意欲が生じてくる。多様な価値観が交錯する社会を生きていく生徒たちには、よりよい生き方を模索し続けることを大切にし、誇りや希望を持って歩んでいこうとする意欲を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

##### (2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級は、小学校の頃から、単学級で同じメンバーと生活しているため、気心知れた仲であり、素

直に自分の思いを表現する生徒が多い。好奇心が旺盛で、様々なことに挑戦する一方で、事前調査「中学2年生になってから、してはいけないことと知りつつ、してはいけない行動をしてしまったことがある」という質問に、「大変そうである」「おおむねそうである」と回答した生徒は68%以上を占めた。

1年生の頃に、「D(22)よりよく生きる喜び」について「銀色のシャープペンシル」「いつわりのバイオリン」という二つの教材を通して学習している。「銀色のシャープペンシル」では、主人公の行動と心情を中心に確認し、人間の生き方について考えを共有した。「人間はなぜごまかしてしまうのか」という課題についてp4cを用いて話し合った。授業のまとめと「今日の授業を受けて、どのように生活していきたいか」と振り返りで書かせたところ、「モヤモヤした気持ちが残るので、正直に言うことを大切にしたい」「後悔が残るので、正直に話したい」などと内容項目の「自らの弱さや醜さを克服する強さ」「気高く生きようとする心」に迫ることができていた生徒の割合は、33%であった。人間の弱さや醜さについて、自分の体験を交えながら話し合う様子が見られたが、それを乗り越え次に向かう強さや気高く生きようとする心を育成するまでには至らなかった。

事前調査で、本時で扱う道徳的価値に関わる調査を行った。調査結果は下記のとおりである。

事前調査の結果（第2学年1組22名） 令和7年8月26日(火)実施

質問項目	大変・とても	おおむね	あまり	そうではない
1 人の心には弱さや醜い部分があると感じたことがありますか。	50.0% 11人	41.0% 9人	9.0% 2人	0.0% 0人
2 人間には、自らの弱さを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがあると感じるがありますか。	36.4% 8人	50.0% 11人	13.6% 3人	0.0% 0人
3 人間には、自己の良心に従って正しく生きようとする心があると感じるがありますか。	22.7% 5人	59.1% 13人	13.6% 3人	4.5% 1人
4 生活の中で、誰かが見ている、見ていないに関わらず、人として正しい行動をとるよう心掛けていますか。	41.0% 9人	54.5% 12人	0.0% 0人	4.5% 1人
5 中学2年生になってから、してはいけないと知りつつ、してはいけない行動をしてしまったことがありますか。	22.7% 5人	45.5% 10人	22.7% 5人	9.1% 2人
回答（記述式）				
6 私は、テスト中に時計を見ようとふと顔を上げたとき、斜め前で解答しているHさんが隣の席のMさんのテストの解答用紙を見ていることに気が付きました。私は、どんなことを考えているでしょうか。その理由も教えてください。	<p>・Hさんの行動をいけないことだと理解し行動に移そうとする気持ちが強い 13名</p> <p>【記述】 勇気があるな、後で先生に言おう、先生に報告する、あとで先生に相談する、先生に伝えようかな、手を挙げて先生に言ったほうがいいという気持ち、先生に言った方がいいかな、カンニングダメでしょ、カンニングを先生に伝えようか迷う、ダメなことだとは思っているが友達に嫌われたくないから先生に言えない、悩んでいる、何してるんだ、みんなは真剣にしているのにその人だけ人の答えを見て解いているからずるい など</p> <p>・Hさんの行動をいけないことと理解していない、行動に移そうとする気持ちが弱い 9名</p> <p>【記述】</p>			

	しっかりと見ているならカンニングを疑う、特に何も思わない、後から後悔すると思う、そのままにする、Mさんがかわいそう、ただ時間を確認しようとしただけでカンニングしたわけではない など
7 私は一人で下校していました。すると、道端に財布が落ちていました。中には欲しかったものが買えるほどの金額が入っていました。私はどんな気持ちでしょうか。この後どんな行動を取ると考えますか。その理由も教えてください。	警察に伝える、届けると回答した生徒の割合は100%であった。
8 私は作文の宿題に頭を悩ませていました。生成A I等は使わず、自分の考えを原稿用紙3枚にまとめるというものでした。1枚分を書いたし、バレないと思ったので、インターネット上の作文や生成A Iに作成させたものを織り交ぜながら完成させました。翌日の朝、宿題を提出したら担任の先生に内容を褒められ、コンクールに出品されることになりました。数週間後作品展で入賞しました。私はどんな気持ちでしょうか。この後私はどんな行動を取ると考えられますか。その理由も教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのまま隠し通す 12名</li> <li>【理由】 自分が嫌われてしまう、辛くなるけど勇気が出ない、なんとも思わない など</li> <li>・本当のことを言う 10名</li> <li>【理由】 罪悪感が残るから、罪が重くなってしまうから、モヤモヤが収まらなくなるから など</li> </ul>

事前調査の設問1、2、3の「道徳的価値の理解」についての設問では、「大変」「おおむね」という肯定的な回答が多かった。しかし、「あまり」「そうではない」と回答した生徒も一、二割程度いることから、人間には、「弱さや醜さを乗り越えていく強さ」や「気高く生きようとする心」があることを実感させるような手立てを講じる必要がある。事前調査の設問6では、カンニングの場面を見たときの心情を記述式で回答させた。生徒の気持ちが素直に表現されているものが多かったが、生徒の記述と日々の見取りから、「いけないと理解しながら、行動に移そうという気持ち」の強弱によって二通りに分けた。人数の多寡に差がないため、教材に登場する人物の心情や級友と考えを共有する中で、道徳的心情についても深められるようにする。「道徳的行為の実現に向けて」に関する設問4では、肯定的な回答が多かったが、記述式で答える設問8の回答を見ると、人間には弱さがあることは理解しているが、実際にそれを乗り越え、行動に移すことは難しいと考えている生徒が半数以上いることが分かった。

### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本時で使用する教材は、アメリカで実際に起きた事件に着想を得て創作された教材である。主人公であるエイミーが自らの目標達成のために、薬物に手を出してしまう人間の弱さや醜さ、ドーピングについて自ら公表し自分自身に誇れる生き方を選択した人間の強さや気高さ、両方が描かれている。

エイミーは世界の舞台で活躍する人である。世界で活躍する人たちにも、「結果を残したい」「ライバルに勝ちたい」という思いから、一度ドーピングを使わないと決意しても誘惑に負けてしまうことがある。その姿から、誰にでも弱さや醜さがあることを実感させるようにする。一方で人間には良心が心の中に存在する。生徒が、「本当にこれでよいのか」と自問するエイミーの姿を想像し、自分自身と照らし合わせることで、自分の弱さや醜さと向き合えるようにしていく。

指導に当たっては、生徒にとって「ドーピング」は身近なことではないため、「いけないと分かっている、自分を抑えられないことがある」という経験を想起させ、「どうして人間はごまかしたり、不正したりしてしまうのか」と問題意識を持たせるようにする。展開では、エイミーが再びドーピングをしてしまったことを取り上げ、「弱さを乗り越えるためには」という課題を設定する。自分を含めた人間には弱さや醜さがあることを前提に、それを乗り越える「強さ」や「気高さ」を得るために必要なことについて、対話を通し、多面的・多角的に深く考えることで、ねらいに迫るようにする。

#### 4 研究主題との関連

##### (1) 生徒の道徳的価値における道徳性の類型化によるねらいの設定の工夫

生徒の実態や傾向を把握するために、観察法、質問紙法、行事等の振り返りの作文の記述を分析し、図1のフローチャートに基づいてねらいとする道徳性を設定する。観察法では、学級会や日常生活での言動、様子等を観察する。質問紙法では、登場人物がどのように感じ、どのような行動をしようとするか問うことで、道徳的価値に対する生徒の道徳性の傾向を捉える。行事での振り返りの作文の記述の分析から、道徳性についての傾向を把握する。フローチャートに示すとおり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的態度、道徳的实践意欲には序列や段階がないことに留意する。

本時のねらいを設定するに当たって、フローチャートに当てはめて考えた。判断基準は、学級の人数の過半数を占めるかどうかで判断する。ただし、少数派の生徒にも配慮し、指導過程の中で、導入や発問の内容を工夫することで、生徒一人一人が道徳的価値を自分との関わりの中で考えられるようにする。質問紙法の内容と人数の多寡は、図2に示した。「道徳的価値の理解」については、これまでの道徳の授業の様子や質問紙の回答から、できていると判断した。「道徳的価値の認識」については、質問紙法の結果を見ると、事例における「私」の気持ちや判断について、十分だと判断した。「道徳的行為への実現に向けて」は、質問紙法で「人として正しい行動を取るように心掛けている」という設問に対して、肯定的な回答をした生徒が95%以上であった。しかし、具体的な事例から、「私」はどうするかという質問に対しては、自分に向けられる他者からの目が気になる、いざというときに勇気が出ないなどという理由で「抵抗がある」と回答した生徒の割合が過半数を占めた。

以上のことより、「主人公が自分の弱さと向き合っているときの心情について考え、人間には自分の弱さや醜さを乗り越える強さがあり、次に向かっていくところにすばらしさがあることを実感することで、自分自身に恥じず、誇れる生き方をしていこうとする実践意欲を育てる」というねらいを設定した。

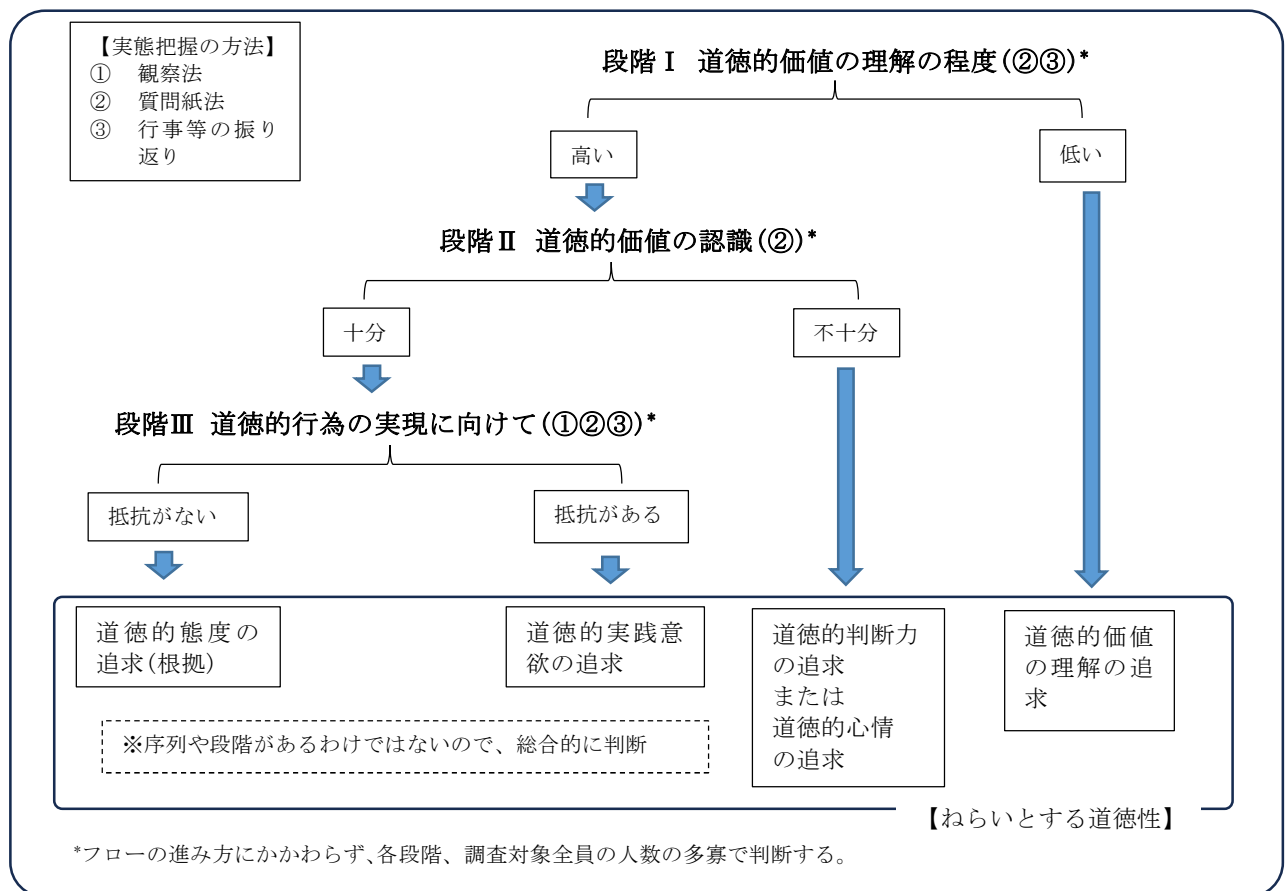


図1 生徒の道徳的価値における道徳性の類型化 フローチャート

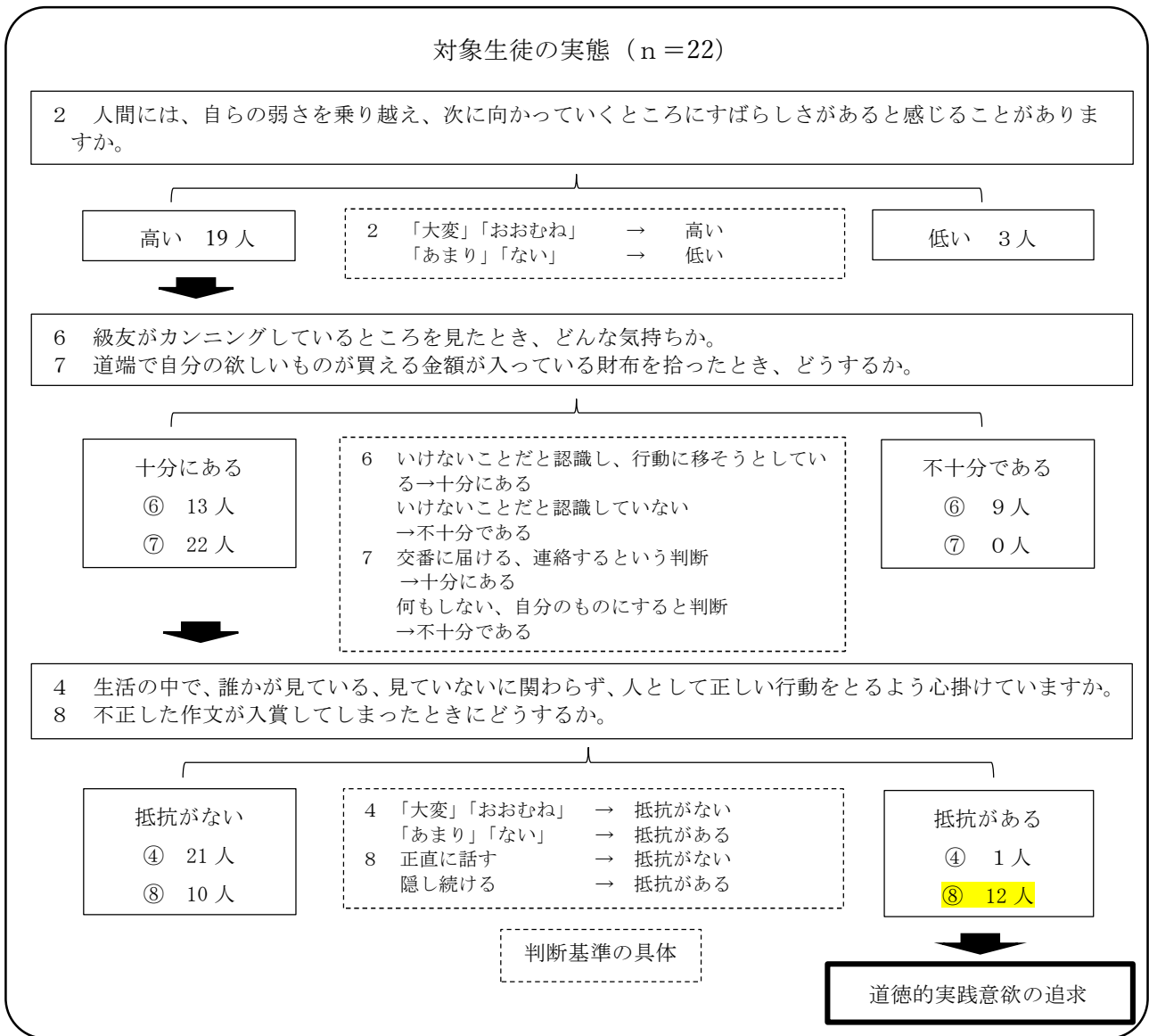


図2 生徒の「D(22)よりよく生きる喜び」における道徳性の類型化の結果

(2) 自己を見つめるための問題解決的な学習

(1)で定めたねらいに応じて、道徳的価値に根差した問題を自覚させる課題を設定する。そのために、事前の実態調査の結果や授業の導入での生徒たちとの対話を通して、問題解決のテーマを決定する。授業の内容に応じて、ICT機器を用いて事前調査の結果を生徒に示したり、考えを集約し共有したりすることで、視覚的にも捉えやすくする。問題解決のテーマにもよるが、解決方法についても、教師と生徒との対話を通して導かれるようファシリテートしていく。そうすることで、道徳的価値を自分のこととして捉え、一人一人が問題意識を持続させたまま授業に臨むことができる。目的に応じて、ペア学習やグループ学習など、授業形態を工夫する。ペア学習は自分の考えを言語化することで再確認し、メタ認知することを目的とする場合に、グループ学習は複数の生徒の考えを聞き、多面的・多角的にその事象について考える場合に設定することで、道徳的価値に対する自分の考えを深めることにつながる。

授業の終結に向かって、自分の生活体験と道徳的価値を結び付けながら自己を見つめ直すために、教材に登場する人物との自我関与やあらゆる人やものとの対話などを通して、課題について多面的・多角的に考える。最終的には、個に戻し、自己を見つめ直して、道徳的価値について自分の考えをまとめるようにする。

5 本時の計画

(1) 学習指導過程

段階	学習活動 ○主な発問（◎中心発問）・予想される反応	形態	指導上の留意点 ☆評価（方法）
導入 8分	<p>1 本時の主題に関わる問題意識を持つ。 ○明日はワークの提出日です。それに気付いたのは就寝する前でした。すぐに終わる量ではありません。あなたは答えを見て終わらせませるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見る。</li> <li>・見ない。</li> <li>・迷う。</li> </ul> <p>2 問題意識を共有する。 ○人はなぜ、だめだと分かっているのに、ずるい行為（以下、「ずる」）をしてしまうのか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題意識 人間は、いけないと分かっているのに、良心が負けてしまう弱さがある。</p> </div>	<p>一斉</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業支援ソフトでアンケートを取り、名前を隠して、結果を提示する。</li> <li>・人間の弱さについて自分のこととして捉えられるように、事前アンケート「してはいけないと知りつつ、してはいけない行動をしてしまったことがあるか」の集計結果を提示する。</li> <li>・「ずるをした」「ごまかした」ときにどんな気持ちになったか、補助発問を投げ掛け、問題意識を持たせるようにする。</li> <li>・本時で扱う「弱さ」の内容に関して、「ずるをしてしまうこと」「ごまかすこと」「不正をすること」だと説明する。</li> </ul>
展開 37分	<p>3 主人公エイミーとドーピングについての説明と、教材の範読を聞く。</p> <p>4 エイミーが再びドーピングをしてしまう姿から、課題を設定する。 ○エイミーは、A社に行くまでどんなことを考えていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライバルに勝ちたい。</li> <li>・世界選手権でメダルを取りたい。</li> <li>・ドーピングをしてよいか悩んでいる。</li> </ul> <p>○自分の中の弱さを感じて嫌な気持ちになったことはあるか。</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を読む前にエイミーについて紹介することで、内容把握をしやすくする。</li> <li>・エイミーについてどう思ったか、全体に問い掛け、数名に聞くことで4の活動につなげる。</li> <li>・世界の一流の選手でさえ、自分の弱さに負けてしまうことがあることを確認し、誰の心の中にも弱さがあることを認識させるようにする。</li> <li>・エイミーが特別な存在ではなく、「弱さ」は誰にでもあるということを認識させるために、事前アンケート「人の心には弱さや醜い部分があると感じたことがありますか」の集計結果を示す。</li> <li>・自分の「弱さ」を感じたとき、「次はこうしよう」と思っても、実行に移</li> </ul>

課題

「弱さ」を乗り越えるためには

5 課題を自分のこととして捉え、道徳的価値に迫る。

○「弱さ」が出るときはどんなときだろうか。

- ・成果をあげたいとき。
- ・欲が勝ってしまうとき。
- ・何かから逃げ出したいとき。
- ・どうしようもないとき。
- ・怒られないようにするとき。

○エイミーは、ドーピングを公表するまでどんなことを考えていたのか。

- ・このままではだめだ。
- ・これは私ではない。
- ・自分らしく生きることはできるのか。
- ・本当に大切なものを取り戻そう。
- ・自分自身に嘘は付きたくない。

6 自己を見つめ、人間としての生き方について考える。

◎自分たちが持っている「弱さ」を「強さ」に変えるためにどんなことを大切に生活していけばよいか。

- ・弱さと向き合うこと。
- ・自分自身や他者から見て恥じない選択をすること。
- ・自分の信念を持ち、誇りを持って生きていくこと。
- ・勇気を持って乗り越えること。
- ・自分自身に正直に生きようとする事。
- ・周りに流されないために、芯を持つこと。
- ・誰かに相談してみる。

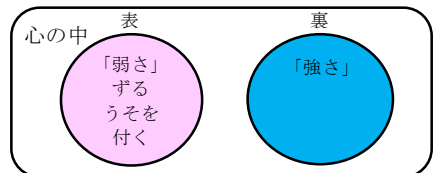
個人  
↓  
グループ  
↓  
一斉

個人  
↓  
一斉

個人  
↓  
グループ  
↓  
一斉

せないことがないか想起させるようにする。

- ・誰にでも「弱さ」があることを再確認し、安心して話せるようにする。
- ・自分の体験や他の人の姿を見て、どんなときに「弱さ」が出るのか、全体で共有する。
- ・「弱さ」の捉えが道徳的価値とかい離が生じてないか留意する。
- ・再度教材に戻り、エイミーがドーピングを公表するかしないか葛藤している心情について考えることを課題解決の一助とし、道徳的価値に迫るようにする。
- ・「エイミーにとって公表することが本当に良かったのか」という補助発問を投げ掛け、揺さぶりを掛ける。
- ・「弱さ」と「強さ」が表裏一体の関係であることを説明し、人間はその時々によって「弱さ」と「強さ」が出ることを説明する。



- ・グループでの話合いや全体指導で補助発問(○)を投げ掛け、揺さぶりを掛けるようにする。
- 本当にそれで「弱さ」を克服できるのか。
- 「勇気」とは、すぐに出てくるものなのか。
- 「強く」生きることのよさって何だろう。
- ・生徒の考えを分類していき、黒板にまとめていくようにする。
- ☆よりよい生き方について、教材の主人公の生き方や級友との対話を通して、多面的・多角的に考えることができる。(観察・道徳ノート)

終 結 5 分	7 本時の授業について振り返る。 ○今日の授業を振り返って、課題について考えたことをまとめましょう。 ・人間には弱さがあるけど、その弱さを認め、向き合うことで自分に恥じない、誇れる生き方につながると考えた。 ・私も自分の弱さを乗り越えていくことは難しいことだと思った。でも、自分の弱さと向き合うことから始めてみたいと思った。	個人	・オンライン授業支援ソフトに振り返りを記述させ、全体で共有するようにする。
------------------	---	----	---------------------------------------

(2) 本時の評価

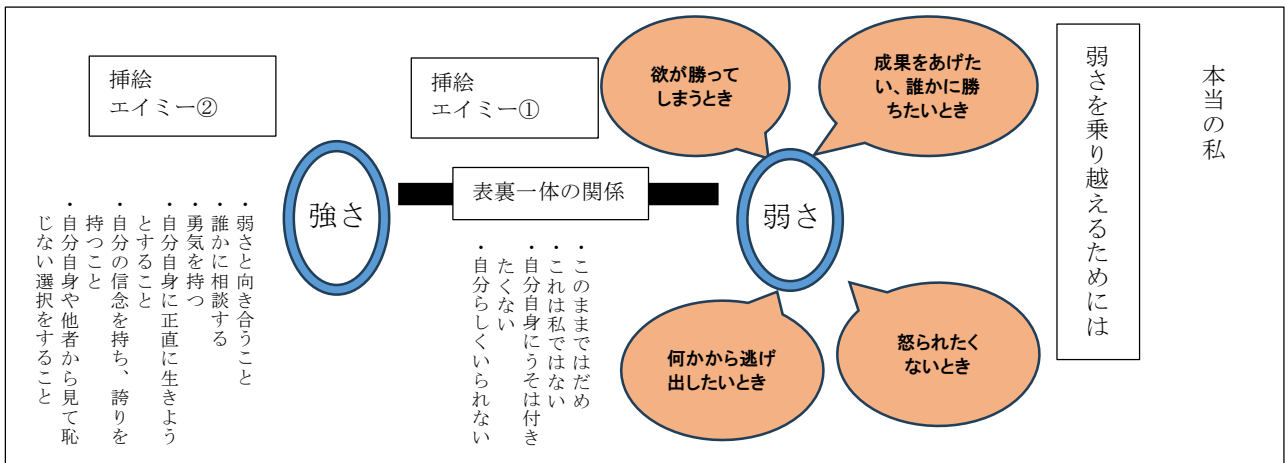
よりよい生き方について、教材の主人公の生き方や級友との対話を通して、多面的・多角的に考えることができる。（観察・道徳ノート）

(3) 準備物

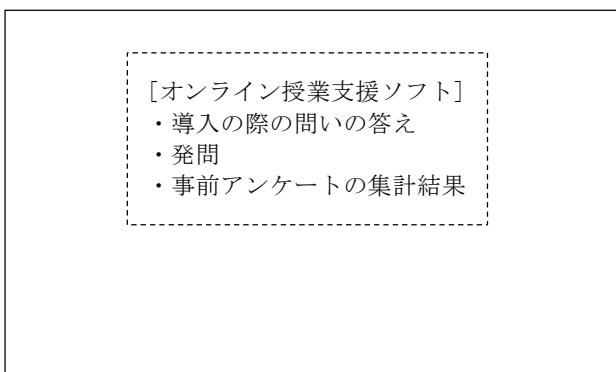
- ① 教師：教科書、電子黒板、タブレット端末、紙板書
- ② 生徒：教科書、道徳ノート、タブレット端末

(4) 板書計画

「板書」



「電子黒板」



6 他の教育活動との関連

〈特別活動〉

〈道徳科の授業〉

〈教科〉

第一学年

第二学年  
七月

九月

十月

十二月

三月

第三学年

学級活動  
委員会活動  
係活動

D (22) よりよく生きる喜び  
「24 銀色のシャープペンシル」  
「35 いつわりのバイオリン」  
(東京書籍 新しい道徳1)

職場体験活動  
働く人の様子を見たり、実際に働くことを経験したりすることで、自分の生き方について考える。



地区新人大会  
スポーツマンシップに則り、正々堂々試合することの意義について考える。



大成式  
これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを持ち、今後の自分の生き方について考える。

自分自身に誇れる生き方とは  
(D (22) よりよく生きる喜び)  
「19 本当の私」  
(東京書籍 新しい道徳2)



後悔せずに生きるために  
(D (22) よりよく生きる喜び)  
「35 良心とのたたかいー「レ・ミゼラブル」より」  
(東京書籍 新しい道徳2)



D (22) よりよく生きる喜び  
「25 自分を変える力ー桃田賢斗」  
「32 足袋の季節」  
(東京書籍 新しい道徳3)

書写  
「行書と仮名の調和〈豊かな自然〉」② よりよく生きる喜び  
「[文字のいずみ]文字と絵」よりよく生きる喜び

数学  
「4節 1次関数の利用」④ よりよく生きる喜び

保健体育  
『(6) 薬物乱用の害と健康』① よりよく生きる喜び 遵法精神、公德心  
美術  
「暮らしの中のデザイン・工芸」① よりよく生きる喜び

は、本時で取り上げた内容項目を示している。

### 7 補充・深化・統合の視点【深化】

今回取り上げる「D(22)よりよく生きる喜び」は、人間としての生き方を考える大切な内容だと捉える。中学生になると、自分自身を見つめ、よりよい生き方について考えられるようになる。その一方で、他者との比較から、虚栄心や優越感を満たすために、自分をよく見せたいという感情も大きくなる傾向がある。日常生活の中で、ごまかしたり、不正を働いたりする自分の弱さや醜さと良心との葛藤の中で、行動を選択していると言える。その選択について、納得することもあれば、後悔することもあるだろう。道徳科の授業で人間の弱さや醜さ、強さや気高さについて考えを深めることで、よりよい生き方を選択していこうとする意欲や態度を醸成することが期待できる。

### 8 教材分析・発問構成

授業分析図

